ライオンズクラブ琵琶湖視察研修会開催

４月２７日（土）にライオンズクラブ国際協会３３５－Ｃ地区環境保全委員会による琵琶湖視察研修会が琵琶湖汽船「ｍｅｇｕｍｉ」で開催された。びわ湖トラストが行っている「ｍｅｇｕｍｉ」による環境学習活動にライオンズクラブさんが関心を持たれたことと、びわ湖トラストの活動を広くご理解、ご支援頂くことにも資することから本研修会の運営をびわ湖トラストがお引き受けしたものである。

研修会にはライオンズクラブのメンバー９５名が参加、研修会場となった「ｍｅｇｕｍｉ」の１Ｆの多目的ラウンジは少し窮屈なほどの盛会となった。トラスト側からはスタッフとして水中ロボットの実演をお願いする立命館大学の川村研究室のメンバーを含め１５名が加わった。

１０時過ぎに大津港を出航し、話題のブラックバスバーガーの賞味の後、研修会がスタートした。主催者の開会にあたっての挨拶、琵琶湖汽船桂取締役から「ｍｅｇｕｍｉ」についての説明、びわ湖トラスト高木理事からびわ湖トラストの活動内容の紹介が行われた後、午前の講義として琵琶湖の環境調査や保護を目的とした水中ロボットの開発を進められている川村立命館大学教授（当トラスト顧問）から水中ロボット技術の概観と琵琶湖で使用されているロボットについての講演が行われた。

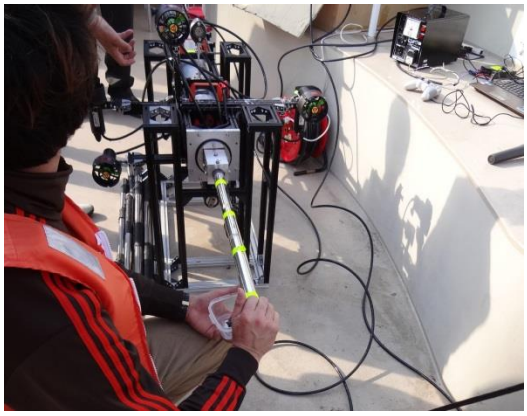
正午前に琵琶湖多景島に到着、皆さんは上陸されて２０分足らずではあるが島内を散策し座学で固まった足腰を延ばされて帰船された。船上での昼食をとりながら沖の白石を通過し次の琵琶湖海底観察地点へ向かった。

１３時過ぎに湖底観察地点の北湖Ｓ局に到着、水中ロボットの海中投入の準備時間を利用して高木理事から船上でナノバブラー（空気の超微細気泡を水中に送り水の浄化を図る装置）の原理についての説明が行われた。

水中ロボットが川村研究室のメンバーの手で湖中に投入され、モニター画面でロボットから送られた画像について解説が立命館大学熊谷教授（当トラスト理事・事務局長）によって行われた。

１４時前に北湖Ｓ局を離れ南湖に向かった。途中午後の講義として熊谷教授から「びわ湖のなぞ」と題して講演が行われた。琵琶湖の成り立ちから始まり、最近の湖底からのベント（ガス・温水の吹き出し）の発見、地形の変動などの琵琶湖の変化が紹介された。講演終了後ライオンズクラブさんの方で研修会参加者へラッキーカード抽選会が行われた。

１５時１５分頃に柳が崎桟橋に停船、川村研究室のメンバーにより水中カメラ搭載ロボットと採泥回収ロボットの２台を用いて湖底のヘドロ採取と観察が実施された。また高木理事から桟橋付近に設置（現在取り外し中）のナノバブラー装置の説明が行われた。



　すべての予定された研修項目を終えて柳が崎桟橋を離れ１６時過ぎに無事大津港に帰港した。帰路主催者からの講評と閉会の挨拶があり、その中で本研修で琵琶湖の水の恵みと大切さを勉強させてもらったとの趣旨の言葉があり、運営を行ったびわ湖トラストとしても、琵琶湖から学ぶことの多いことまた琵琶湖の水環境の重要性をご理解いただく上での一助になったとの確信を持った次第である。

（藤田理事）